

ついでに... 熊退教協の基本姿勢・理念

熊本県退職教職員等連絡協議会(熊退教協)は、二〇二四年に結成五十周年を迎えます。結成から半世紀、これまでの活動を振り返り、明日へつなげていきます。

一九六七年、退職女性教師達は退職後の生活を守るため退婦協(現 全国退職女性教職員(会))を結成。この運動に刺激され、全国では一九七〇年頃から退職教職員協議会結成の動きが始まり、一九七四年二月熊退教協が結成されました。

『熊退教協は、地区別の退教協組織の確立、会員の加入促進、年金・医療等を中心とした退職者の福祉充実、会員の親睦等を運動の中心に据えて今日まで活動してきました。私たちは、平和で豊かな安心して暮らせる社会づくりのために、さらに学び合い、助け合いを求め、生まれてきて良かった、生きてきて良かった、と言える世の中にする』



水俣芦北退教 (秋の親睦旅行)

ために取り組みを続けたいと思います。特に、戦争を体験した私たちは、教え子再び戦場に送らないと決意し、実践してきました。憲法九条は私たちの信念であり、世界へ広げべき理想であります。

私たちは子どもや孫や後から生まれてくる人たちのために、平和で、緑豊かな日本と地球を護るために、さらに生き生きと胸を張って頑張りましょう。

〔熊退教協結成二十周年記念誌より〕
これは草創期に二十年近く会長を務められた上野一孝さんが二十周年記念誌に寄稿されたものです。熊退教協の基本姿勢・理念が要約されています。

熊退教協は各地区退教協の連絡協議会です。結成当時から、各地区で会員間の親睦・交流等独自性のある活動を主体的に続けてきました。

結成当初は六十数名でスタートした会が、二〇〇〇年には二千人を超える組織となりました。

結成から半世紀。退教協も新たな局面を迎えています。熊教組の組織の現状、退職後の再雇用等々で会員の減少が続く、組織上大きな課題となってきました。退職後の人との絆を深める場としての退教協の存在を、退職された方々に認識してもらう活動が重要となります。

我が国は、ここ数年の間に進むべき方向を大きく変えてきました。安倍元首相の路線を踏襲する岸田政権は国会を軽視し、閣議決定で重要事項を推進し、戦争のできる国へと舵を切りました。

国会の状況も「改憲」勢力に三分の二の議席を与えてしまいました。平和憲法も危機的状況を迎えています。

二十一世紀を人権・平和・環境が大切にされる社会にと日退教と共に活動してきましたが、未だかなわぬ世界が広がっています。

熊退教協は五十周年を機に、これからも平和憲法を護り、社会保障の充実を求めて活動

を重ねていきます。熊退教協は先達が積み重ねてこられた財産を基に、これまで以上に人と人との絆を大切に、居て良かったと安堵できる場をめざして活動を続けていきます。



人吉・球磨退教 (総会)

熊退教協 50年間の経過 (抄)

- 一九七三年 九月 日本退職教職員協議会が結成
- 一九七四年 二月 熊本県退職教職員等連絡協議会が結成
- 一九七九年 二月 日退教九州ブロックの結成総会
- 九月 熊退教協と熊退婦協との組織の一本化がなされる
- 一九八四年 八月 第十一回定期大会にて、非核熊本県宣言、運動の推進
- 一九八五年 八月 老人保健法・年金・医療に対するハガキ運動展開
- 一九八六年 十二月 熊退教協ニュース第一号を発行
- 一九八八年 五月 全地区で年金や税金についての学習会を開く

- 一九九三年 三月 熊退教協第一回友好の会を催す
- 七月 熊退教協結成二十周年記念誌を作成
- 一九九五年 一月 阪神淡路大震災へのカンパ支援
- 六月 熊退連(熊本県退職者連合)が結成、熊退教協も加盟
- 十月 新教育会館建設が始まり、退教協として建設資金カンパ活動を行う〔熊本市九品寺にて九六年八月竣工〕
- 一九九六年 三月 友好の会天草大会にて「介護システムと介護保険」について研修
- 一九九七年 三月 教科書問題で県議会へ陳情
- 一九九九年 八月 『日の丸・君が代』法制化に反対する県民集会参加
- 二〇〇一年 十月 自衛隊海外派遣に反対する県民集会参加
- 二〇〇三年 五月 教育基本法改悪に反対する県民集会参加
- 十二月 熊退教協結成三十周年記念誌を作成
- 二〇〇四年 一月 核兵器廃絶を求める一千万人署名活動
- 二〇〇五年 十月 医療保険制度の充実を求める署名活動
- 二〇〇八年 三月 「高齢者医療・保険・介護・病床の再編成でどう変わる暮らし」について学習
- 二〇〇九年 四月 子ども救援カンパ活動
- 二〇一一年 三月 東日本大震災支援カンパ活動
- 二〇一二年 六月 第三九回定期大会で「原発再稼働中止を求める決議」

- 二〇一四年 六月 辺野古新基地建設中止を求める取り組み
- 二〇一五年 四月 岩田とも子県教組委員長、熊本県議に初当選
- 二〇一六年 四月 熊本大震災への救援活動
- 二〇一七年 六月 特定秘密保護法・共謀罪・戦争法廃止を求める取り組み
- 二〇一八年 七月 憲法改悪阻止に向けての三千万人署名活動
- 二〇二〇年 二月 コロナ感染拡大により県友好の会を中止
- 七月 熊本大水害への救援活動
- 二〇二二年 三月 ウクライナからの即時撤退を求め、ロシア大使館へ抗議文送付
- 二〇二三年 二月 四年ぶりに県友好の会(第28回)を開催



阿蘇退教 (旧草部南部小にて)

*現存する『定期大会議案書・熊退教協ニュース・二十周年記念誌・三十周年記念誌・日退教記念誌・県教組記念誌』等を参照